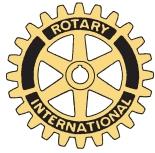


## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566) 22-2111  
FAX (0566) 25-2111  
メール kariyac@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 鈴木 豊  
幹事 小川 耕 示  
会報委員長 丹 羽 克 誌

2013 ~ 2014年度 国際ロータリー ロンD.バートン 会長テーマ

Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2834回例会プログラム

[当年度=26回目; 当月=4週目]

2014年(平成26年) 2月24日(月)

## 1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事

## 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告

8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(3/3) ……

永年在籍会員表彰(60周年実行委員会)

※60周年会員集合写真撮影

(3/8) ……

創立60周年記念式典

10:30 ~ 刈谷市産業振興センター

※3月10日(月)の例会変更分です。

## 2. クラブフォーラム……………〈国際奉仕委員会〉

- 13:00 卓話 「タイ・チェンライ(刈谷の森)植林活動報告」  
講師 伊藤 節夫 会員

(紹介者 吉原 孝彦 会員)

13. 謝辞  
14. 点鐘……〈会長〉  
15. 閉会宣言

## 13:30 16. 散会

## ビ ジ タ ー

名古屋東山 RC 森川 辰幸 様 (副会長)  
碧南 RC 杉浦 秀延 様

## 出 席

会員総数 96名 出席免除 26名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 90名  
欠席 7名 出席率 92.22%  
前々回(2/15)の修正出席率 100%

## 幹 事 報 告

- 1) 本日、例会終了後、事務局にて理事会を開催致します。ご関係の方はお集まり頂けますようお願いいたします。  
2) 次回3月3日の例会では、創立60周年記念誌の集合写真の撮影を行ないます。  
3) ロータリーの友事務局発行 ロータリー手帳の注文予約を受け付けています。ご希望の方は事務局へお申し込み下さい。

## 会 長 あ い さ つ

井ヶ谷・遊心寺抱き地蔵に見る庶民の暮らし  
鈴木 豊

ぼっくり寺として知られる井ヶ谷・遊心寺。本堂左側にある毘沙門天の隣に、かわいらしい抱き地蔵があります。この地蔵は岡崎の信心深いお年寄りの夢枕に地蔵が現れ『井ヶ谷に毘沙門天を祀るお寺を探して我を納めよ』と告げられたことがきっかけとなり、その老人が遊心寺に寄進したと言われます。

この地蔵は「願いが叶うときには軽く持ち上がり、願いが叶わないときは持ち上がらない」と言われます。

抱き地蔵の習慣は、古来から伝わる「石占い」の1つ。以前、裏日本の旅先で「昔は占いをする専任の人がいて、

願主の依頼に応じて抱き上げて占っていた。とくにお産について占ってもらう事が多かった」と聞いたことがあります。そして「占い師がいなくなり、願主が自分で抱くようになった」と。

遊心寺の抱き地蔵も、お産と深く関わっていたのでしょうか。

誰もいなくなった夜の境内。子どもに恵まれない女性が、常夜燈の明かりを頼りに歩いてきます。本堂に一礼したあと、地蔵に手に合わせ、そっと地蔵を抱えようとしますが、地蔵はびくと動きません。その場で、肩を落として涙する女性。やがて、隣の毘沙門天に説得され、励まされるように立ち上がり、星の輝く道を帰って行ったのです。

いつの世も、困ったときに神仏に頼ります。昔はお百度を踏んだという話が数多く残っています。力の弱い庶民の味方として、抱き地蔵は今も私たちを見守ってくれているのかもしれませんが。私は、そう思うとかわいらしい地蔵に思わず手を合わせました。

## クラブフォーラム

### 「タイ・チェンライ（刈谷の森）植林活動報告」 伊藤 節夫 会員



タイ王国での植林活動も目標の5年目を迎え、区切りの最終年度になりました。最初植えた木も順調に育ち禿山であった山にも緑があふれ、木陰が出来るまでに成長しています。タイでの植林活動は、刈谷ロータリーとタイ OISCA と地元住民の共同参画で行われています。

ここで、OISCA についてお話したいと思います。十分理解してみえる先輩方は復習の意味で、始めて聞く方は新鮮な気持ちで聴いて頂ければ幸いです。「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指す。

1961年に設立されました。その理念を実現する手段としてオイスカは、宇宙がもたらす恩恵や生かされている事への感謝の心を持ち、地球上の生あるものすべての共生を目指して行動できる人材育成に努めています。

心があっても行動が伴わなければ、世界は良くなりません。また、謙虚さを失い自己の利益のみを考えた行動は、私たち人間ばかりか、地球にとって負の影響を与えるものでしかありません。

心と行動をともに兼ね備えた人が1人でも増えるように働きかけていくことこそがオイスカのすべての基本です。

主に、アジア、太平洋地域で農村開発、環境保全活動を展開しています。特に人材教育にも力を入れ各国の青年が地域リーダーとなれるように研修を行っています。

今回参加された全員が、このような考えで参加されたかは、分かりませんが、素晴らしい事だと思います。

昨年の10月9日から13日までの4泊5日（機中1泊）で行ってまいりました。

（タイ王国の地図を出す）

タイでは、タイ北部とタイ南部の2ヶ所に行っていました。

セントレア空港からバンコク バンコクからチェンライ チェンライからチェンコン ホテル到着が23時頃翌朝8時出発し植林地の地元の人たちと植林しその後学校訪問をしてまいりました。

植林地、学校訪問前にホテルの会議場でタイオイスカによるオリエンテーションを開き1年間の、植林地の経過説明が報告され滞在期間行動計画を確認しいざ出陣しました。ホテルから現地までは車で30分位のところです。

途中で、麦わら帽子、軍手、村民へのおやつを調達し現地に向かいました。

日本から持っていったお土産もありましたが、地元で食べなれているおやつの方が、口に合うのではないかと買い買っていきました。

ちょっとした気遣いです。

タイ北部は山岳民族が多く、タイの中でも貧困地域にあって、かつてはタイ、ミャンマ、ラオスの3国が国境を接するゴールデントライアングルを中心に麻薬を精製するケシの栽培が盛んに行われていた地域で、政府による取締りが進んだ結果、住民の多くは農業に従事するようになり生計を立てています。

その多くは、とうもろこしなどの単一作物の一面栽培を行うため、山の木々は切り取られ雨季に大雨となると洪水、鉄砲水、山崩れが起き、乾季には、焼畑農業の為火の不始末による山火事がおき、火事による煙害の悪い連鎖がおきています。

昨年の4月に山火事が発生し植林地まで火が延焼しないように、約20人の村人たちが懸命の消火活動行いました。

火が完全に消えるまで24時間もの時間を要し、この日は風が強く強風にあおられ火が勢いづいて消化活動も難航したそうです。

この時季は、雨季に入るまえで大地は乾燥し、下草や落ち葉なども燃えやすい状態で、あらかじめ防火帯を作り延焼を防ぐはずの防火帯を乗り越え刈谷の森も一部延焼していました。

現在木によっては、根元から新芽も出てきている木もあり、完全に枯れたわけではない事が救いです。

植林にも、山火事にもほとんど無関心であった村人が、年間を通じ大変な作業を経験し、植林地に対し愛着を感じ、自分たちの仕事に対して誇りを持ち始めている事が村人の行動で明確であります。

この植林プロジェクトにおいて1番大切な事は、植林地の苗木を守る事だけではなく、村民の森への気持ちを育てていくことでしょう。

私たちも、村人のこの思いを見守って行きたいと思いをします。

村の学校では、校長先生をはじめ、休校日にもかかわらず生徒が出迎えてくれました。昨年校庭に植えた木も子供たちの水掛や管理がよく1本も枯れることなく順調に成長していました。

食堂の屋根は、穴が開き雨の日には雨漏りがし衛生が良くありません。

日本からの持って行った文房具も感謝され一連の行為に対して感謝状を頂いてまいりました。

次にラノーンの植林に付いてお話しします。バンコクから南へ570KMのミャンマーと隣接するラノーンは人口16万人の県です。

マングローブとは海水と淡水の入り混じる所に生息している木の総称で700から1000もの種類があるそうです。

マングローブは、薪の材料、建築材、海老の養殖場などによる伐採により大変な時期もあったそうですが、今では東京海上日動火災株式会社やさまざまな企業からの支援を受けほぼ昔の姿に戻っています。

ただ、ところどころ生育の遅れ、何らかの理由で枯れてしまった木の補修が必要なぐらいでした。

マングローブ林の中には、無数の砂山があり高いものでは背丈ほどのものもありました。その山には無数の穴が開きシャコの生息地でした。マングローブの生息により自然環境もよくなり蟹、シャコ、エビ等も沢山船の上から観察することができました。

漁業も盛んになり地元の魚市場もにぎわいを取りもどしたそうです。

経済発展の為に切ったマングローブも、気が付けば、漁師達も海はあれ、経済も悪くなり、自分で自分の首を絞めている事に気づきマングローブ林の再生で生計が成り立つようになったようです。

環境省の職員からラノーン地域の状況説明がありました。

北部同様に地元の人の意識も少しずつ変わりつつある事が感じられました。

その後陸路プーケットへ5時間の旅が始まりました。



## 第9回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
  - 1. 3・4月のプログラム(案)について 〈クラブ奉仕委員長〉〈プログラム委員長〉
  - 2. 花見例会について 〈親睦活動委員長〉
  - 3. 刈谷音楽協会第10回刈谷音楽祭後援名義について 〈社会奉仕委員長〉
  - 4. FC刈谷協賛について 〈社会奉仕委員長〉
  - 5. 東日本大震災会計の振替について 〈幹事〉
  - 6. 理事会資料ペーパーレス化について 〈幹事〉
  - 7. その他
- III 会場監督の所見